

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第7部門第3区分
 【発行日】平成29年3月30日(2017.3.30)

【公開番号】特開2015-192321(P2015-192321A)
 【公開日】平成27年11月2日(2015.11.2)
 【年通号数】公開・登録公報2015-067
 【出願番号】特願2014-68542(P2014-68542)
 【国際特許分類】

H 0 4 N 1/41 (2006.01)

H 0 4 N 19/645 (2014.01)

【F I】

H 0 4 N 1/41 B

H 0 4 N 19/645

【手続補正書】

【提出日】平成29年2月21日(2017.2.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0038

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0038】

分解レベル1において、帯域成分LL1は画像の本質的な情報に対応する。なお、帯域成分LL1によれば、分解前の画像の1/4のサイズの画像を提供可能である。帯域成分HL1は垂直方向に伸びるエッジの情報に対応し、帯域成分LH1は水平方向に伸びるエッジの情報に対応する。帯域成分HH1は斜め方向に伸びるエッジの情報に対応する。これらの点は他の分解レベルについても同様である。例えば、分解レベル2の帯域成分LL2, HL2, LH2, HH2は、分解前の帯域成分LL1を原画像と見なした場合における帯域成分LL1, HL1, LH1, HH1とそれぞれ同様の関係にある。図5に原画像の例を示し、図5の原画像を分解レベル3までウェーブレット変換した画像を図6に示す。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0042

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0042】

具体的には、まず、非ROIに対応するウェーブレット係数のうちで最大値 $\max(Mb)$ を求める。次に、 $s_{\max}(Mb)$ を満たす s (スケーリング値と呼ばれる)を求める。そして、ROIに対応するウェーブレット係数のみを、最上位ビット(MSB)側に s ビットだけシフトさせる(図8参照)。これにより、ROIに対応するウェーブレット係数の値が、 2^s だけ相対的にスケールアップされる。なお、ROIに対応するウェーブレット係数をROI係数と呼び、非ROIに対応するウェーブレット係数を非ROI係数と呼ぶ場合がある。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0071

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 7 1 】

< R O I 処理部 2 3 0 >

図 1 6 に、R O I 処理部 2 3 0 で行われる処理 S 1 0 について、フローチャートを示す。図 1 6 の例によれば、工程 S 1 1 において、R O I 処理部 2 3 0 は、量子化画像データ 3 0 8 に含まれる複数の量子化ウェーブレット係数のそれぞれが、原画像中の R O I と非 R O I のどちらに対応付けられているのかを、スケーリング量 3 0 4 に基づいて判別する。

【 手続補正 4 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 1 1 2

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 1 1 2 】

しかしながら、指定値 3 1 6 として、第 1 画像データ 3 1 4 の分解レベルと同じ値を指定することも可能である。すなわち、この例では、I D W T 部 2 5 0 は、逆量子化部 2 4 0 から取得した第 1 画像データ 3 1 4 に対して I D W T を行わずに、第 1 画像データ 3 1 4 を第 2 画像データ 3 2 0 の代わりにマスク実行部 2 6 2 に供給する。